

同志社大学人文科学研究所  
国際学術シンポジウム「磁場としての東アジア」

Doshisha University Institute for Study of Humanities and Social Sciences  
International Symposium "East Asia as a Magnetic Field"

# 北に渡った言語学者

キム ス ギョン

# 金壽卿の再照明

(1918-2000)

金壽卿

2013年 11月 9日 土 10:30～17:30 (開場10:00)

同志社大学今出川キャンパス  
明德館1番教室

通訳あり 日本語・韓国語 入場無料・申込不要

プログラム

## 第1部 北朝鮮の言語学・言語政策と金壽卿

キム ハス  
金河秀 (延世大学校) 「北朝鮮の言語学史をどうみるか」  
チュギョングン  
崔炅鳳 (圓光大学校) 「言語学史の観点からみた金壽卿」

司会：コ ヨンジン (同志社大学)  
(昼休み)

## 第2部 金壽卿の国際的照明

コ ヨンジン (同志社大学)・板垣竜太 (同志社大学) 「金壽卿の朝鮮語研究と日本」  
チュウイソン  
趙義成 (東京外国語大学) 「旧ソ連の言語学と金壽卿」  
チュヒョク  
崔羲秀 (青島濱海学院) 「金壽卿と中国の朝鮮語学」

司会：洪宗郁 (同志社大学)

## 特別講演

キム ヘヨン  
金惠英 (トロント大学)・キム テソン  
金泰成 (釜山大学校) 「父・金壽卿」

## 第3部 総合討論

司会：板垣竜太 (同志社大学)

主催：同志社大学人文科学研究所  
共催：同志社大学グローバル地域文化学部、同志社韓国研究センター

### ▼全般的なお問合せ

同志社大学人文科学研究所 Tel: 075-251-3940  
ji-jimbn@mail.doshisha.ac.jp  
http://jinbun.doshisha.ac.jp/

### ▼個別・専門的なお問合せ (韓国語対応可)

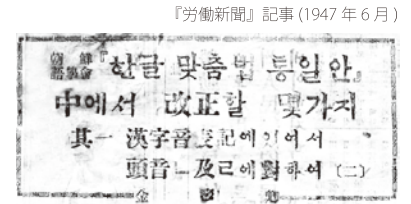
企画者 ksg.sympto@gmail.com

Ким Сугён

김수경

## <シンポジウム趣旨>

<sup>キム スギョン</sup>  
**金壽卿** (1918～2000) は、1945 年以前に京城帝国大学法文学部・東京帝国大学文学部 (大学院) で哲学と言語学を学び、日本の敗戦後は 1946 年に北朝鮮 (1948 年以降は朝鮮民主主義人民共和国) に渡り、同国の言語学・言語政策において大きな影響力をもった言語学者である。たとえば現在「労働」という単語について、南では「ノドン (nodong)」で北では「ロドン (rodong)」と表記するが、この表記法が北朝鮮で確定される際に大きな理論的役割を果たしたのが金壽卿であった。彼は 1940 年代から 1960 年代まで、同国の言語学の中軸を担った。しかしながら、その歩みはまだ本格的には解明されていない。



本シンポジウムは金壽卿の生涯と研究について多角度から検討することで、北朝鮮の言語政策・言語理論のみならず、植民地時代および冷戦期における学問や、南北分断状況における家族といった問題まで考える。言語という側面から北朝鮮を照明することは、同国に関する冷静な学術研究が求められる現状において、新鮮な視点を提供すると考える。

本企画の目玉は、金壽卿の実の娘・<sup>キム ヘヨン</sup>**金惠英氏** (トロント大) と実の息子・<sup>キム テソン</sup>**金泰成氏** (釜山大) による特別講演「父、金壽卿」である。金壽卿は朝鮮戦争時に家族と離ればなれになったが、1980 年代末以降、再会をとげる。その家族離散と再会の経験を語っていただく。公の場でこの話を語るのはこれが初めてのことであり、注目される。

こうしたパーソナル・ヒストリーを中心に置きながら、専門の研究者をパネリストとして招き、金壽卿の業績や生涯について学術的・総合的に論ずる。

**第 1 部「北朝鮮の言語学・言語政策と金壽卿」**では、まず<sup>キム ハス</sup>**金河秀氏** (延世大) が、その後の専門的な議論に先立つ講演として、北朝鮮の言語政策および言語学史を総論的に論ずる。次に<sup>チェギョンボン</sup>**崔炅鳳氏** (圓光大) が、コリア語学史のなかで金壽卿の業績を実証的に位置づける。

**第 2 部「金壽卿の国際的照明」**では、日本・旧ソ連・中国のそれぞれの観点からの議論を提示する。まず、**コヨンジン氏**・**板垣竜太氏** (いずれも同志社大) が、金壽卿の朝鮮語学を、植民地時代の知的形成や日本との関係から論ずる。次に<sup>チョウイソン</sup>**趙義成氏** (東京外国語大) が、ソ連の言語学の影響という観点から金壽卿の位置づけを論ずる。そして、中国の朝鮮語学の元老研究者である<sup>チュヒス</sup>**崔義秀氏** (青島濱海学院) が、中国朝鮮族の言語学への金壽卿の影響を語る。

公開シンポジウムであることにかんがみ、専門的な内容を含みながらも、一般聴衆にも分かりやすい場であることをめざしたい。

